



## 第101号 ふれあいの里

〒632-0001 天理市中之庄町470 TEL.0743-65-1771(代)

発行責任者: 鉄村 信治  
編集: ふれあいの里広報委員会

## CONTENTS

- 1頁 医療と介護の連携
- 2頁 奈良マラソンレポート
- 3頁 ふれあいの里 健康講座  
ふれあいの里 秋の作品展
- 4頁 秋の日帰りツアー  
日本リハ医学会研修施設に認定

<http://www.fureai-net.com/>

# 医療と介護の連携「地域包括システム」の構築

新年あけましておめでとうございます。

安倍政権がスタート(平成24年12月)して今年で足掛3年目にに入りました。日本経済の再生に向け「三本の矢」が放たれ、世間では好況感が芽吹き始めた感があるが、社会保障制度(年金・医療・介護・福祉)においては厳しい改革が予測される。

平成26年(2014年)度 診療報酬改訂の重点課題として医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実等が求められている。今後の医療提供体制については、現行の病床区分は「療養病床」(主として長期にわたり療養を必要とする患者を入院させるための病床)、「精神病床」(精神疾患を有する患者を入院させる病床)、「感染症病床」(感染症の患者を入院させる病床)、「結核病棟」(結核の患者を入院させる病床)、上記以外の患者を入院させる病床を「一般病床」とした4区分で、平成26年度(2014年)よりスタートする**病床機能報告制度**に基づき、都道府県において地域の各医療機関が担っている医療機能の現状を把握し、都道府県や医療関係者の参画を得て検討会が設置され病床機能報告制度で報告された情報を取り込み、医療法上的一般病床・療養病床について、医療機能毎に現行の「一般病床」「療養病床」の2区分を**「高度急性期機能病床」**(急性期の患者に対して、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能)、**「急性期機能病床」**(急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能)、**「回復期機能病床」**(急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能)特に、急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者に対し、ADLの向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する機能(回復期リハビリテーション)、**「慢性期機能病床」**(長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能・長期にわたり療養が必要な重度の障害者(重度の意識障害者を含む)、筋ジストロフィー患者又は難病患者等を入院させる機能)の4区分とし、各医療機能の基準病床数が定められる。

その上で各医療機関の既存病床数が基準病床数を超えている場合には、新規開設・増床については、公的医療機関の場合には許可しない、一般医療機関の場合には勧告でき、その地域にふさわしいバランスのとれた医療機能の分化と連携を進められる。各



医療法人 健和会 顧門

社会福祉法人 大和清寿会 理事 浅田俊勝

医療機関の定量的な基準(例えば手術や処置等医療の内容を踏まえた指標)により病床数を定める。

都道府県において、二次医療圏毎の各医療機能の将来の必要量を団塊の世代が75歳以上となる平成37年(2025年)に向けた**地域医療ビジョンの策定**を平成27年(2015年)以降に定める。

超少子高齢社会においては、慢性疾患を有する高齢者が増えることから、急性期を脱した患者の転院先がなく、次の救急患者を受け入れられない状況もあり、急性期後の病床等の充実の必要性として、**高度急性期医療よりも地域に密着した回復期病床(診療報酬上の亜急性期入院管理料等平成25年7月現在17,828床)のニーズの増加が見込まれる。**

平成25年度の国民医療費は42兆円と推計されており、26年度に向けた自然増は約1兆3500億円(3.2%)と見込まれている。自然増の負担状況を見ると、税が約5100億円(国が約3500億円、地方が約1600億円)、保険料が約6500億円、患者負担が約1800億円となる。特に保険料負担は公費負担を上回る水準の負担増になるので、保険料を負担する企業・家計(被保険者)への影響が大きく、この上に診療報酬プラス改定が行われた場合さらに負担が重くなるとして財務省はマイナス改定を主張していた。

平成25年(2013年)10月1日付日本人の人口は1億2618万人で後期高齢者75歳以上人口は1583万人で12.5%である。平成25年(2013年)の国民医療費予算ベース41兆8000億円のうち後期高齢者(老人)の医療費が15兆円で人口比12.5%であるが、全医療費比としては約35.8%になる予定である。

このような超少子高齢社会においての社会保障給付からして、これから診療報酬・介護報酬のプラス改定は望めず、今後は**資産を含め負担能力に応じた負担**が求められる。

自院の医療機能を明確化して、医療・介護提供者間のネットワーク化で、地域全体で治し、支える「地域完結型」の連携が不可欠。

## 健和会理念

私達は、医療がサービス業であることを認識し、以下の目標を掲げる。

- 1・患者さん中心の医療・看護・介護
- 2・地域社会への貢献
- 3・研究心と向上心を持つ
- 4・和を尊ぶ

## 健和会基本方針

- 1・私たちふれあいの里の職員はいつも患者さんの意思を尊重し権利を遵守して、患者さん中心の医療・看護・介護を実践します。患者さんのADL(日常生活動作)改善とQOL(生活の質)向上のため、積極的にリハビリテーションに取り組みます。
- 2・私たちは、他の医療機関や地域の人々と連携して地域社会に貢献し、社会に開かれた施設を目指します。
- 3・私たちは患者さんから学ぶという初心を忘れず、より良い医療・看護・介護を提供できるように常に研鑽し探究する精神を持ち続けます。
- 4・私たちは力を合わせてチーム医療の遂行のために努力します。

## 奈良マラソン2013 レポート



トボトボと歩いているのと変わりない速さでフィニッシュ。「芬富マラソン」それが奈良マラソン2013を走り終えた後の感想です。練習不足で挑んだので、辛く、苦しいマラソンになるであろうと想像していましたが、その通りの結果になり、今後の大きな反省材料になりました。

私自身のことはさて置き、今回の奈良マラソン2013も随所に楽しみどころがあり、奈良の魅力を十分に感じることができるマラソン大会だったことをレポートします。

「2時間44分」。今回の女性選手の優勝タイム?いいえ、違います。インターネットでのフルマラソンのエントリーが定員の1万人に達した時間です。第1回大会は定員に達するまで1週間程時間があったはずなので、4回目開催のこの奈良マラソンがいかに人気のある大会なのかが分かっていただけるでしょう。

スタート時の気温は9.5℃、風もほとんどなく絶好のマラソン日和です。青空のもと、1万人のランナーが鴻ノ池陸上競技場をスタート、1万人のランナーなので、スタート地点を最後のランナーが通過するのに10分かかります。緩やかな下りのやすらぎの道を大宮通りへ向かって快調に走ります。スタート直後は全てのランナーが満面の笑みで走ります。帰りはこの緩やかな下り坂が地獄の上り坂に豹変することが、ふと脳裏をよぎりますが、それよりワクワク感が勝ります。大宮通りを朱雀門へ向かう道路も緩やかな下り坂になっているので、前を走る1万人のランナーを見下ろすことができるのですが、この瞬間も奈良マラソンの大きな魅力の一つです。1万人がゴールを目指してほぼ固まって走っている風景は圧巻です。そして、右手に朱雀門を見た後、最初の折り返し地点(二条大路南5丁目・5km地点)です。この辺りでもほとんどのランナーは余裕の笑顔で沿道の温かい声援にハイタッチで答えながら走ります。今度は大宮通りを東大寺方向へ向かいますが、少し上り坂です。近鉄奈良駅を過ぎ県庁前まで来ると、更に多くの沿道の応援に迎えられます。コスプレランナーも沢山いますが、コスプレ沿道応援団の数も年々増えていて、調子に乗り、全員にまだ余裕のハイタッチです。それから、奈良教育大学前を通り、169号線へ向かいます。10キロを過ぎると、ランナーは密集から細長く伸びてくるので、随分走りやすくなります。169号線に入ると、すぐさま気持ちが「ふれあいの里」大応援団が待つ16キロ地点になり、ついついハイペースになります。オーバーペースのまま、ふれあいの里応援場所に到着、沢山の入居者様や職員、更に、ふれあい仮面からの声援を受けテンションがピークを迎えます。16キロでピークに達してしまい、残り26キロを如何にして走りきるかを考えることに気持ちが切り替わります。ふれあいの里を過ぎると上り坂が始まり、ノリノリの大音量が聞こえてきます。奈良マラソン名物?!「今ノ葉狂志郎さん」です。派手派手衣装と分厚いメイクに思わずニヤリ、エネルギーを少し分けていただき、高低差80メートルの奈良マラソン最大の難所に突



入です。白川ため池の微妙なアップダウンをなんとか通過し、名阪国道をまたぐ白川大橋手前までは上り坂、そして白川大橋を過ぎると天理方面に一気に下ります。この地点で22キロ、下り坂をオーバーペースで走った為、天理よろず病院前の平坦な道でも脚が重く感じ始めます。天理教本部前のコースはでこぼこの石畳になっており、重い脚に更なる負荷がかかり、折り返し地点の特設給食所で、あられ入りぜんざいを食べ、吹奏楽の演奏を聞きながら少し休憩。一旦走るのを止めてしまうと、想像以上に脚が重いのに気づき、再び走り始めるのに勇気が必要です。そして、30分前に一気に下ってきた道に到着し、上り坂に脚を踏み入れた瞬間、脚が上がらなくなりペースダウン。この地点が28キロ、ここからが苦行の始まりです。歩いているランナーもいる中、なんとか急な坂を上り切り、31キロ地点の給水所でたいしてお腹も空いていないのに、休憩したいが為に三輪そうめんを頬張ります。次の目標地点はふれあいの里職員が応援待機している、ふれあいの里北側入口の34キロ地点。この時点で作り笑顔をするのが精一杯で、沿道の方とのハイタッチはかなり大変です。少し走っては屈伸運動などを繰り返しながら、なんとか自分の脚を騙して34キロ地点のふれあいの里応援場所に到着、しばし歓談。34キロのこの距離、この疲労で知っている人の声援は強い励みとなり、応援団と残り8キロを気力で走りきることを約束し、ゴールを目指します。35キロを過ぎると、沿道の応援に笑顔でえたり、ハイタッチする気力も失われてしまいますが、各給水所で脚を休ませ、何とか踏ん張ります。再び奈良公園内を通る時、公園内の鹿が「走るシカない!」(※今大会キャッチコピー)と囁いているのに耳を傾けながら、鴻ノ池陸上競技場手前の地獄の上り坂に向かいます。沿道の声援に励まれ、最後1キロの上り坂を歩くように走り、ようやくフィニッシュラインへ。ゴール後、フィニッシャータオルと完走メダルを首にかけてもらい、安堵の溜息と共にようやく自然な笑顔がこぼれました。

今大会も沿道のたくさんの熱い応援とボランティアの方々のサポートがあってこそマラソン大会だったことを肌に感じ、来年もまた出場しようと心に決めました。こんな魅力満載の奈良マラソンに来年は是非参加しましょう!!!

(エバーライフ御殿山 西村 雅)

## ふれあいの里 健康講座

平成25年11月27日(水)に「ふれあいの里健康講座友の会」の秋のバスツアーといたしまして、和歌山県の名産を巡るツアーアを実施いたしました。

今回は25名の方に参加していただきました。

まず最初に、醤油発祥の地であります湯浅醤油工場の見学です。

ここでは、醤油の起源や製法、醤油がなぜ「むらさき」と呼ばれるか?など説明していただき、また、市販には出回ることのない出来立ての「生醤油」の試飲もさせていただき、普段我々が何気に使っている調味料の醤油の「奥深さ」にふれるよい機会となりました。

昼食は、安珍・清姫伝説で有名な道成寺の参道にあります「雲水」にて「名物鯛釜飯と紀州うまいもん」をいただきました。メニュー名の通り熊野牛のすき焼きや梅うどんや金山寺みそなど紀州の美味しい食事を堪能しました。

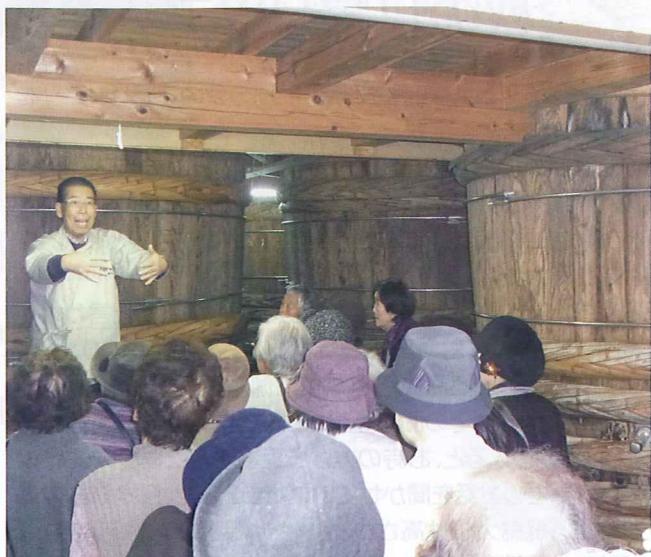
最後に食後のデザートということで有田みかん園にてみかん狩りを行いました。

たわわに実ったみかんを抱き取りその場でいただく。新鮮で、甘くてとても美味しかったです。



天候にも恵まれ、参加していただいた方々にも1日楽しんでいただき、とても素晴らしいバスツアーとなりました。

このように、当ふれあいの里では「ふれあいの里健康講座友の会」の活動をおこなっています。



具体的には、年2回(春・秋)の健康バスツアーや年1回の健康講座講演会を通して皆様と一緒に健康促進のための知識を深めていくことを目的として活動しております。入会資格は特になく、入会金・年会費も無料です。

「ふれあいの里健康講座友の会」では、会員を随時募集しております。

友の会に入会してみようと思われた方はお気軽にお問い合わせください

※醤油のことをなぜ「むらさき」というのか?

昔の人は赤褐色のことを紫と言い、醤油の色が赤褐色であったため、また、古来高貴の象徴であった紫に譬えるほど、醤油がその当時高価で貴重であったためにそう呼ばれていたということです。

(お問い合わせ) 奈良東病院(担当)藤村まで  
TEL.0743(65)1771



## ふれあいの里 秋の作品展

今秋も11月1日より1ヶ月間、「ふれあいの里 秋の作品展」を開催させて頂きました。今年で7回目を迎える、作品数も1回目の60点より、今年は過去最多の167点もの作品をご出展頂きました。その作品の一つ一つに各々の想いや心が込められていることを感じます。

今後も作品展をより良いものにしていけるよう創意工夫し、継続していくことを考えておりますので、次回もたくさんの方のご応募をお願い致します。

ふれあいの里 秋の作品展実行委員会  
奈良東病院 総務課 藤川 晃吉



## 秋の日帰りツアー

エバーライフでは、10月22日に恒例の秋の日帰りツアーを開催しました。

いつもは県外に出かけるのですが、今回の行き先は「飛鳥」です。近場なので、観光にも食事にもお土産を買うのにも時間にゆとりがあり、入居者様にゆったりと飛鳥めぐりを楽しんでいただけだと思います。

私たちがまず最初に訪れたのは、日本最古のお寺と言われている「飛鳥寺」です。曾我氏の氏寺として栄え、東西200メートル・南北300メートルもある寺域に大伽羅を誇った時代もあったそうですが、今はその面影もなくこじんまりとした佇まいのお寺です。本堂に入ると、お寺の方から飛鳥寺とご本尊の飛鳥大仏の歴史などのお話を聞かせていただきました。日本最古の仏像でもある飛鳥大仏は高さが3メートルほどですが、手を伸ばせば触れられそうな距離でじっくり鑑賞できとても良かったです。二度の大きな火災にあうなどして損傷が激しく、何度も修復されてきたお顔にはツギハギが見られました。建物は建て替えられてきたが、大仏の安置されている石造りの台座は創建当時から場所が動いていない…というお話を聞き、1400年もの間この場所から人々を見守り続けてきた飛鳥大仏を皆様は感慨深げに見つめておられました。

飛鳥寺を出た後は、萩王という日本料理店で昼食をとりました。入居者様が日帰りツアーで一番楽しみにされているのは、やはり食事です。企画する職員も毎回食事の内容、店の雰囲気などを調べて時間をかけて決めています。前回のツアーは中華料



理だった、その前は和食、その前はフレンチ…とマンネリにならないように考えます。今回は古民家を改装した落ち着いた雰囲気の店で、新鮮な地の食材を使った創作懐石を堪能しました。素揚げした柿を味噌でいただく柿の田楽や、蓮根うどんなど珍しい料理に歓声が上がる場面もあり、楽しく食事をしていただけたと思います。

午後からは石舞台古墳を見学してから、近くの土産物店に立ち寄りました。ご家族に、またツアーに参加できなかった入居者の方に、そしてご自分用にと思い思いにお土産を買って帰られました。

今回も入居者様とともに、たくさんのお土産と思い出を持ち帰ることができ、私たち職員も満足感と達成感でいっぱいです。そして、また次の春のツアーもより楽しいものになるよう企画したいと思います。

(エバーライフ 小林 京子)

## 日本リハ医学会研修施設に認定

奈良東病院が「日本リハビリテーション医学会研修施設」に認定されました

奈良東病院は、2013年11月より日本リハビリテーション医学会研修施設の認定施設となり、リハビリテーション専門医・臨床認定医をめざす医師(先生方)の受け入れができるようになりました。

日本リハビリテーション医学会研修施設とは、リハビリテー

ション認定臨床医及び専門医をめざす医師の修練の場となる施設のことです。ここでは指導責任者の認定を受けた専門医が常勤しており、認定臨床医および専門医を目指す医師が研修を受けることができます。



### 編集後記

新年明けましておめでとうございます。皆様、昨年はどのような1年を過ごされましたでしょうか。世間一般的な話題でいえば、昨年9月に2020年の東京オリンピックの開催が決定いたしました。1964年以来56年ぶりの開催ということで、東京を中心に日本各地で熱狂の渦が巻き起こりました。私自身1964年はまだ生まれておらず、その間に札幌、長野で冬季オリンピックは行われましたが、夏季オリンピックは初めて目の当たりにします。6年後ではありますが、今から非常に楽しみなイベントの一つです。

身近なところに目を移しますと、スポーツつながりとなりますが、12月8日に第4回奈良マラソンが開催されました。ふれあいの里では今年はテントを張り、配布するチョコレート等を增量し、昨年に続きランナーの皆さんを応援させていただきました。例年以上にランナーの方々の人数・迫力が増し、応援の方々の人数も昨年よりも増えたのですが、それでも圧倒されてしまいました。古都奈良の一大イベントとして末永くこれからも開催していただきたいと思います。

季節は真冬ではありますが、今回の誌面ではふれあいの里内の秋の催し事を掲載させていただいております。まだまだ寒い日々が続きますが、体調を崩されませぬようお過ごしください。

(広報委員長 橋本 重之)

### ■ふれあいの里 総合相談窓口

月曜日～日曜日 AM9:00～PM5:00 ※年末年始(12/30～1/3)を除く

〒632-0001 奈良県天理市中之庄町510-2

TEL.0743-65-5141 / FAX.0743-68-4100